

平成25年度第2回鳥取県日野地区連携・協議会（会議概要）

- 1 日 時 平成26年1月21日（火）午後2時55分～4時
- 2 場 所 日野振興センター 大会議室
- 3 出席者 平井鳥取県知事、竹内江府町長（会長）、景山日野町長、増原日南町長ほか鳥取県及び日野郡3町関係職員

4 あいさつ（要旨）

【竹内会長】年が明けましてまた新しい年でこうして法定協でしっかり意見交換をしながら、手を結んで達成化に向けて頑張っていければと思います。

県の方では「障がいを知り、共に生きる」という大きなテーマを掲げておられますが、こういった中で私は裾野にもきちんと伝わって、一緒に頑張れる状況が重要ではないかと思っております。

【平井知事】おかげさまで、いろいろな形で共同事業が作られるようになってまいりまして、住民の皆様のサービスに届くようになり始めたと思います。全国的にも珍しい町の境を乗り越えてやって行こうということであり、更に県も入ったハイブリッドな行政が展開できていようかと思っております。

会長からお話がありましたとおり「障がいを知り、ともに生きる」、その年にさせていただければと、県政を挙げて取り組んでいきたいと思っております。是非とも実践型の行動を起こしていければと思いますので、よろしく願いいたします。

5 会議録署名委員の指名

竹内会長が「日野町の景山町長」と「日南町の増原町長」2名を指名

6 報 告

- (1) 平成25年度事業実施状況について
- (2) 平成25年度収支の状況について

事務局八幡事務長から資料により説明、執行残額は3月幹事会で報告し各町、県に返納予定

7 議 事

- (1) 第1号議案 平成26年度事業計画（案）について ⇒ 承認
- (2) 第2号議案 平成26年度歳入歳出予算（案）について ⇒ 承認
- (3) 第3号議案 平成26年度負担金（案）の決定について ⇒ 承認

8 協議事項（重点項目）

- (1) 道路維持等専門部会の取組状況について
- (2) 農業分野等専門部会の取組状況について
- (3) 監査専門部会の取組状況について
- (4) 教育専門部会の取組状況について

事務局八幡事務長及び各部会長から資料により説明

9 意見概要

<道路維持・除雪>

【増原町長】除雪車の運転手の確保というのは一つの大きな課題だと思っています。建設業等も非常に高齢化しているし、特に重機を扱う人間に対して何らかの年間雇用できないのか、それから重機の維持ができないという話もあり、そのままどんどん経験者が減っています。もう一つ、日南町は林業労働者の新規就労がここ3、4年で30人くらい増えています。ただ1月・2月・3月のこの期間は、地域を歩いてみると若い方なんです。そういう方が家におられます。そういう方に例えば重機の作業方法を教えるということは、ある意味では建設業の支援にもなるし、例えば鳥取型の林道の整備ということにも使えますので、年間の就労として、冬以外は林業をする、若しくは建設業で重機をやっていく、それから林道の開設をしていく、冬の間は除雪をするということができれば。冬は除雪機械を使いますが夏は遊んでいるわけですので、そういうものを活用して研修の場であるとか、免許や技術を取得していただくというのは非常に有効ではないかという気がしています。

【景山町長】今お話があった除雪車のオペレーターの育成は、緊急の課題となっています。具体的には、建設業と森林組合の方との連携が必要ではないかと以前から痛切に思っていて、なかなか実現は難しかったのですが、本当にこの連携協議会で取り組む必要があると思います。

【平井知事】除雪の関係で林業の方を活用してはというのは素晴らしいアイデアだなと思いました。東の方では、杜氏と林業を組み合わせるコンビネーションを考えている人もおられます。こちらは更に雪深いので、除雪と林業を組み合わせるというのは大変合理的だと思いますし、後継者問題は10年も経てば心配だと思っていたところですので、モデル的に是非してみられたらどうかと思います。

<鳥獣被害対策・農地利用促進>

【増原町長】日野郡鳥獣被害対策協議会について、今聞いているところでは有害鳥獣のチーフに6人応募があったということで、ある程度人材確保の目途は立つのではということをご報告します。

【景山町長】農地利用促進の菜種について、日野町黒坂にあるおしどり作業所に県の支援を受けて搾油機を整備し、処理する体制は整えたのですが、鳥の被害が大きくて原料の確保が非常に難しいということがあります。今後は、公社を活用して何とか原料の確保に取り組み、県普及所の力を借りて物にしていきたいと考えていますので、よろしく願います。こんなに難しいものとは思っていませんでしたが、支援していただいているので頑張りたいと思います。

【竹内会長】菜種に非常に思い入れがあるのですが、農家への推進については経済的な意味でリスクが大きく、なかなか難しいということでした。反当たり7~8万も赤字が出るということではこれを行政で支えるということは困難ですので、公社で取り組むということは正解だというように思います。笠良原で試験栽培をやっていただいて、休暇村奥大山から非常に喜ばれました。お客さんを運ぶ時にずいぶん喜ばれたということで、

景観作物としては大きなメリットがあったということです。自分の希望はまずは作業所での身障雇用の安定、できれば増員ということ、併せて特産ができるということです。日野町の公社とも連携してお互いにしっかりやっつけよう。まずは公社で頑張っ、安定的な部分を供給できるようにしていきたいと思ひます。

<日野郡の教育のあり方>

【景山町長】 教育専門部会の中で、本年度から日野郡の教育のあり方を重点項目に掲げていただきました。これはもともと日野郡の中で子供が減少し続けており、このまま放置すれば単町での教育に支障をきたすということで、これからは日野郡全体で教育のあり方を考えようという辺りからスタートしたものです。今日の報告の中にもありますが、日野町にある日野高校を何とか元氣付ける方法はないかということで、2年以上前になります日野高校の在り方を考える協議会を立ち上げて、3町のいろいろな分野の方にお話を聞く会を設けています。では行政はどういう視点で協力できるかということで、12月に3町長とセンター長と集まっていたき、3町としては積極的にこの将来の日野高校の在り方というものに対して協力していこう。それには県教委、鳥取県の協力も得ながら、特色のある、出口の見える、出口を期待していただけるような日野高校を作り上げる、それに対して3町手を結んで頑張っ、いこうという姿勢を示しました。今月の30日に日野高校の在り方を考える協議会を開き、3町長とセンター長とで合意した内容をその場でお示しし、ご承認いただいた上で方向を定めて、県や県教委の方をお願いをしたいという方向で今進んでいます。先ほどのアンケートを見ても、非常に高校に対して地域の企業等々の期待もあるということです。それをよく考えてお願いしていくとともに、3町が手を携えて行きたいと思ひます。

【平井知事】 日野高校につきまして、昨シーズンは入学者が定員割れということになりました。また分析してみてもショッキングなのは、地元の子が必ずしも行くわけではなくよそへ行ってしまふということです。隠岐の島の例を参考に検討していただひていますが、やはり魅力のある学校が地域の財産である、更にそれが小中学校や保育所、幼稚園、子ども園といった一貫性のある教育、地域社会と結びつた教育、そういうことを本気で考えないと学校の存続自体が正直難しい時代に入っていくのではないかと危惧しています。その意味で、せつかく日野高校の在り方を考える協議会ができたということです。そちらを中心に話をしてもらっ、はどうかと思ひます。同じような話が中国地方、特に中山間地各地であります。5県の知事で集まった際に隠岐の島がこんなに上手く行っているという背景を聞いたりしたのですが、広島県では同じようなことをやろうとしたが上手いかなかった。そのように上手いくケース、上手くないケースがあります。単にやってみるではなく成功させなければいけないので、その辺は皆さんでよくご協議いただき、なるほどこれなら地元の子は行きたくなる、それが小中学校の教育と結びつくな、そういうことをお互いに提案していければありがたいと思ひます。

<その他>

○障がい者支援関係

【平井知事】 ご提案いただきました「障がい者を知り、共に生きる」について、これから具体的に肉付けするということでした。今年是全国障がい者芸術文化祭を全県的に展開していますが、今日も県全体の障がい者の方の団体の要望を伺っていました。というのも、新年度に向けて県では障がい者のコミュニケーション支援を行おうと考えています。地域に障がい者の方はおいでですが、高齢者と違い数が多くありませんので、フル装備で各町が支援を考えてみるのは難しいかもしれません。今、発達支援と障がい者雇用で連携しておられますが、共同での障がい者福祉があってもいいのかなと思います。子供や高齢者であれば市町村ごとに思い切った仕事ができますが、障がい者の方は数も少なく、盲・ろうの重なっておられる対象者の方であれば3町にどれだけおられるのか。それなら、例えば災害弱者対策などをまとめて実施した方がいいかもしれないと思います。そのためにそれぞれに1・2人がいるよりもまとまって、そこに県も支援を考えていった方が合理的かと思いましたが、是非検討していただければありがたいです。

○エコツーリズム関係

【平井知事】 昨年国際エコツーリズム大会を開催しましたが、非常に評判が良かったのがたたらツアーで、これはひょっとして商品化ができるんじゃないかなと。エコツーリズムはそれに限らず、ラフティングやトレッキング、もちろんスキーや農山村の体験ツアーなどもあります。庶務部門の仕事にもありますが、情報発信や共同でのキャンペーンとかでやってみて、ある程度ロットを揃え、ちょっと夢のような話かもしれませんが例えば修学旅行の受け入れだとか。エコツーリズムのツアーを去年は単発でやりましたが、例えば‘たたら’を核にして継続的に売り出して行くとかツアーデスクを作るだとか、その辺もこれからの課題としてあっていいのかなと思います。こちら周りで広島や岡山の方に抜けたり、西部の中で回ったりといろいろなツアーができるのではないか、その辺を継続してできないかなという思いがあります。

【竹内会長】 エコツーリズムについてですが、実はエクスカッションで奥大山古道の話があります。近畿方面、神戸・大阪から昨年で大体250名くらいの来客があり、バス一台で来て休暇村で食事をしてから歩いていただく、神戸新聞や近畿バスの企画ということでしたが、結構伸びしろがあるのではと思っています。先般も境港の方でのたたら関係の話が新聞に掲載されていましたが、やはりきちんとした商品化の可能性があるのではと思いますので、お互いに計画しながら打って出るという形に持って行ければと思います。

○地域スポーツの振興について

【増原町長】 少子化のために日野郡内に小学校が4つ、中学校3つでその中でもやはり子供が少ないということで、スポーツ振興というか、子供たちのいろいろなスポーツに対する機

会が減っているということがあります。スポーツ振興はある程度西部的なものとして考えていかないと、いわゆる‘競い合う’ということがなくなってくるのではないかと。日野郡代表で出てもなかなか県大会等で優秀な成績をとることができないのではと非常に心配していて、それは決して日野郡の子供たちのレベルが低いということではなく、競争の原理が働いていないと思っているのです。今、教育委員会に言っているのは、教育委員会自身も改革をしていただいてということです。縄張りではないですが、例えば体育協会は一本化でもいいのでは私自身が思っています。ですから、もう少しそういうところを教育委員会自体で話し合う場を設けさせたいと思っています、そのようなことを少し県教委とも連携しながらやっていかないといけない、スタンドアローンで井の中の蛙になってしまうと、子供たちにとっては非常に可哀想かなと感じています。

【竹内会長】 増原町長がおっしゃったことは確かにあります。学力という部分では、結構小規模でもしっかりやれます。問題点として挙がってくるのが、運動・部活、小学生で言うとクラブ活動ですね。これはしっかり教育委員会の方で考えていただくことですが、私はこれからはやっぱり動くことだと思います。今まではじっとその地域だけでスポーツをしたり、いろんなことをしているわけですが、これからはその殻を破って出ていく、動くということ、行動力が必要になってくるのではないかと感じています。

【平井知事】 県はこの4月で機構改革を思い切ってやろうとしています。オリンピックが2020年に見えてきました。夢も大きく、オリンピック選手を鳥取県からも出すということぐらいは考えてもいいと。さらにスポーツツーリズムを考えますと、鳥取県は非常に適地なんです。合宿、あるいはキャンプ地として考える、そういうことも含めるともう教育委員会の手を余るようになってきていますから、いっそ教育委員会からスポーツは知事部局へ移すと。これは今の教育の法制度の中で可能になっていますので、そういうことで切り取って共同化していくことも本来は可能だろうと思います。それで、今のお話のようなある程度まとまったところでちゃんとしたレベルの選手が見込まれるということは、むしろ全県的にも、これは私のほうで勝手に言う「チーム鳥取」みたいにして最優秀な選手、将来何年後にはオリンピックに行くかもしれないような選手を育てるつもりでのピックアップをやっていくことがあってもいいと、その中で競争の原理が働いても良いのではないかと思います。みなさんで制度設計していただければ、知事部局として新組織で応援していきたいと思っています。